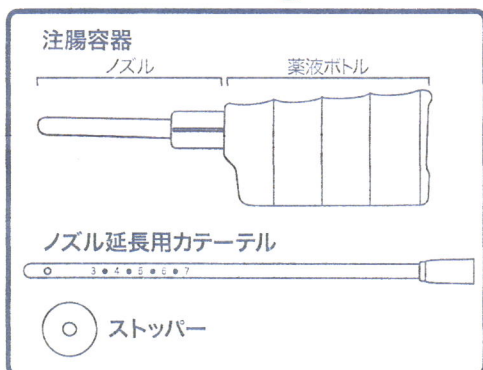


# ペンタサ<sup>®</sup>注腸1g 使用説明書

—ご使用の前に必ずお読みください—

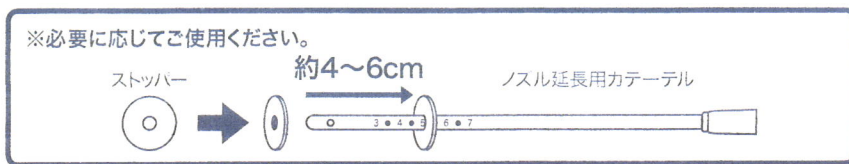
- ご使用直前までアルミ袋から取り出さないでください。(本剤の有効成分は光によって変色します。)アルミ袋から取り出したものは保存できません。

## ペンタサ注腸1g製品内容

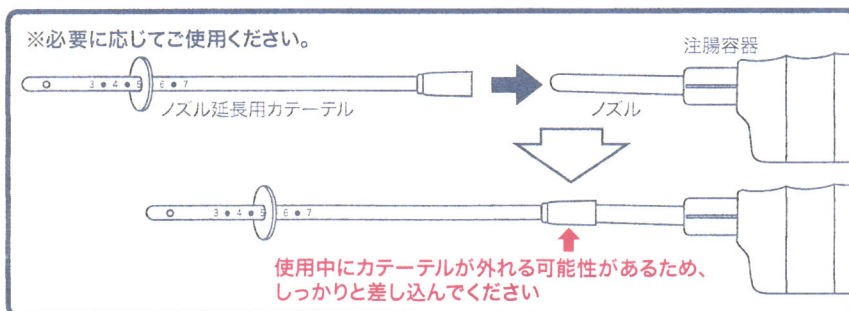


- 柔らかく細長いノズルをご希望される患者さん用に**ノズル延長用カテーテル**と**ストッパー**が付属しています。本使用説明書をよくお読みいただき、必要に応じてご使用ください。
- ノズル延長用カテーテルを使用せずに、注腸容器のノズルを直接肛門内へ挿入することも可能です。ご使用しやすい方法で行ってください。

## ノズル延長用カテーテルとストッパーの使い方



- 円盤状のストッパーをノズル延長用カテーテルの先端から4~6cm(目盛4~6)を目安に差し込んでご使用ください。
- カテーテルが肛門内に入りすぎると直腸粘膜を傷つけることがありますので、特に初めてご使用される場合はストッパーをご利用ください。



- ノズル延長用カテーテルを注腸容器のノズルにしっかりと差し込んでください。

## 1 腸を刺激しないために

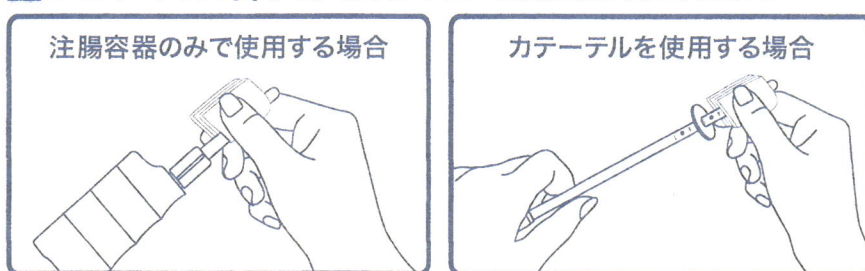
※必要に応じて行ってください。

- 薬液が冷たいと腸を刺激することがありますので、冬などの室温が低い場合は、適温のお湯につけ、体温程度に温めてご使用ください。

※特に、アルミ袋から容器を取り出して加温する場合は、温度の上がり過ぎにご注意ください。

## 2 スムーズに挿入するために

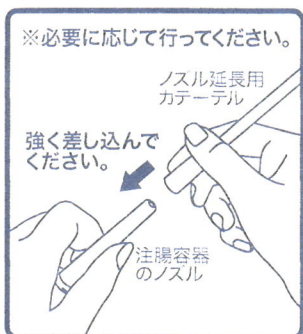
※必要に応じて行ってください。



- 挿入しづらい場合は、ノズルやカテーテルの上部に潤滑剤(ワセリン、オリーブ油等)を塗ってご使用ください。

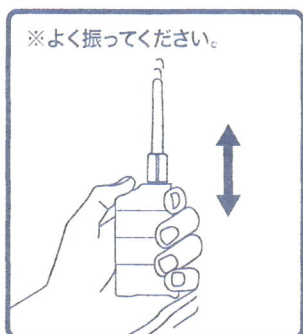
※カテーテルを使用する場合は、注腸容器のノズルに潤滑剤を塗らないでください。

## 3 カテーテルの接続



- ノズル延長用カテーテルをご使用される場合は、**開栓前に強く差し込んでください。**

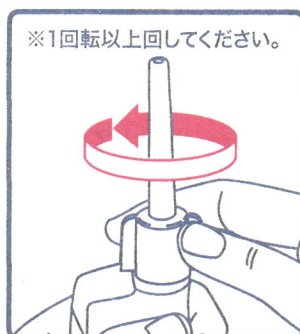
## 4 注腸液の懸濁



- 容器をよく振って混ぜ、白い懸濁液としてご使用ください。

※白い沈殿物がお薬です。上澄液だけが先に出てしまうと、お薬がノズルに詰まることがあります。

## 5 容器の開栓



- 容器を軽く包み込むように持ち、**ノズルを1回転以上(360°以上)**させると薬液が出るようになります。

※2~3回転させるとより薬液が出易くなります。

### 【注意】

- ◆開栓時に容器を強く握りしめると、薬液が飛び出すおそれがありますので、強く握りしめないでください。
- ◆まちがって目に入ったり、からだに付着した場合は、水で洗い流してください。それでも何かおかしいと感じたら、医師にご相談ください。
- ◆薬液がシャツや下着などに付着するとしみになります。洗濯するなどすぐに洗い流してください。
- ◆ノズルが薬液ボトルにしっかりとめ込まれていない場合、注入時に薬液が漏れることがあります。開栓時に隙間ができた場合は、薬液がこぼれないようにノズルを薬液ボトルに押し込んでください。